

令和5年度シラバス（芸術） 学番7新潟県立新潟北高等学校

教科(科目)	芸術（書道Ⅰ）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	光村図書出版『書Ⅰ』				
副教材等	なし				

1 学習目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 指導の重点

- ・書における幅広い表現の基礎を学び、創作活動に必要な技能を高める。
- ・様々な書の表現活動を通して、書的美しさを感じ取る感性を高め、表現する楽しさや喜びを味わう。
- ・表現及び鑑賞における幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てる。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するための基礎的な技能を身に付け表現している。 	<p>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりしている。</p>	<p>書の伝統と文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。</p>

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。 	<p>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりしている。</p>	<p>書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。</p>
評価方法	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み状況 ・提出作品の技能や表現の分析 ・提出物、学習プリントなどの内容 <p>などから評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み状況 ・提出作品の技能や表現の分析 ・提出物、ワークシートなどの内容 <p>などから評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み状況 ・作品、学習プリントの提出 ・出席状況 <p>などから判断します。</p>

5 学習計画

	単元名	授業 時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
1 学 期	・オリエンテーション	2	・書写から書道へ	・「書写」と「書道」関連及び違いについて理解する。 ・年間計画や授業の取り組みについて理解する。	a. b. c	・作品内容 ・学習プリント ・授業の取り組み ・出席状況
	・楷書の学習	16	・孔子廟堂碑 ・九成宮禮泉銘 ・雁塔聖教序 ・顔氏家廟碑 ・牛橛造像記	・書体の変遷や楷書の古典にふれ、書の歴史と表現の広さを理解する。 ・楷書の古典の鑑賞と臨書を通して、用筆・運筆・字形の取り方を学び、楷書の基本的な用筆法を習得する。		
	・行書の学習	5	・蘭亭序	・行書の古典の鑑賞と臨書を通して、用筆・運筆・字形の取り方を学び、行書の基本的な用筆法を習得する。		
2 学 期	・行書の学習 ・篆刻の学習	14	・風信帖 ・姓名印	・蘭亭序の活動内容と同様 ・篆刻の用具用材・技法について理解する。	a. b. c	・作品内容 ・学習プリント ・授業の取り組み ・出席状況
	・仮名の学習	10	・蓬萊切	・仮名の成立や種類、単体や連綿について理解する。 ・古筆の鑑賞と臨書を通して、仮名の基本的な用筆法を習得する。		
	・実用書	5	・年賀状の作成	・これまでの表現技法を生かし、毛筆による年賀状を作成する。		
3 学 期	・仮名の学習	8	・高野切第三種 ・寸松庵色紙	・仮名の運筆のリズムをつかみ、短冊や散らし書きによる表現技法を習得する。	a. b. c	・作品内容 ・学習プリント ・授業の取り組み ・出席状況
	・漢字仮名交じりの書の学習	10	・作品制作	・身近な言葉や詩文を題材に、漢字と仮名の調和を図り、用具用材や字形、構成を工夫して作品を制作する。 ・自分や他の生徒の作品を鑑賞する。		

計 70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

・毎時間、作品もしくは学習プリントの提出があります。提出物の内容については指示に従い丁寧に取り組みましょう。

7 担当者からの一言

・様々な書にふれ、作品制作・鑑賞を組み合わせて進めていきます。人によって「いいな」と感じる感性は異なるので、様々な角度から作品のよさを味わい、自分の表現を見つけていきましょう。